



外国人介護人材受入れの 在り方に関する検討会 ～ケアポート板橋の取組み～

平成28年8月5日(金)
不二健育会 ケアポート板橋
施設長 小清水 一雄

社会福祉法人不二健育会概要 事業員数：約200名



- ◆特別養護老人ホーム ケアポート板橋 105床
EPA介護福祉士 2名（フィリピン2名）
EPA介護福祉士候補者 3名
（フィリピン1名・インドネシア2名）計5名

- ◆ショートステイ 15床
 - ◆デイサービス 舟渡デイサービスセンター
 - ◆舟渡地域包括支援センター
 - ◆舟渡居宅介護支援事業所
 - ◆舟渡ヘルパーステーション
- 東京都板橋区舟渡 3 - 4 - 8**



- ◆東坂下デイサービスセンター（1階）
- ◆グループホーム かもめの家（2・3階） 18床

東京都板橋区東坂下 1 - 12 - 7

海外からの医療従事者受入れ

2004年経済同友会において、健育会グループ代表竹川節男が「医療先進国ニッポンを目指して」を提言し、積極的受入を明記。

海外からの医療従事者の受入れが必要。



日本で医療・介護の知識や技術を学び、習得していきたい。

E P A 候補者の実績 (H28年8月現在)

年度	名前 (合否など)	国名	活動と実績	現在
20	M.H (合格)	尼	24年国家試験合格	24年帰国
21	I.P (合格)	尼	25年国家試験合格	26年帰国
21	E.P (合格)	比	25年国家試験合格	就業中
21	H.B (前施設で合格)	比	26年他施設より転籍	27年転籍
22	T.R (不合格)	比	25年他施設より転籍	26年再受験前に帰国
23	T.M (合格)	比	26年国家試験合格	就業中
25	S.D (29年受験)	比	27年他施設より転籍	就業中
26	W.A (30年受験)	尼		就業中
26	S.K (30年受験)	尼		就業中

EPAの取組み

（2026年度）
EPA
候補者
介護福祉士

21年度

PASS



23年度

PASS



25年度



26年度



26年度



生活問題に
取り組みます

仕事を教え
ます

勉強を教え
ます

外国人介護福祉士育成の
ため、組織的な支援体制
を取る（EPAチーム）



施設長



EPA管理者



業務担当



教育担当

実務は業務担当が責任者
として所属フロア
リーダーを中心に指導



不二健育会における指導



③特養で、介護業務と日本語学習をOJTで、試験勉強を内部研修というかたちで支援していく

①グループホームにて日本人の生活や文化、考え方を学ぶ



②デイで介助の基礎やコミュニケーションを学ぶ



ケアポート板橋

かもめの家

当法人訪問介護事業について

名称：舟渡ヘルパーステーション

職員数：

23名（常勤3名・非常勤3名 登録17名）

事業内容：

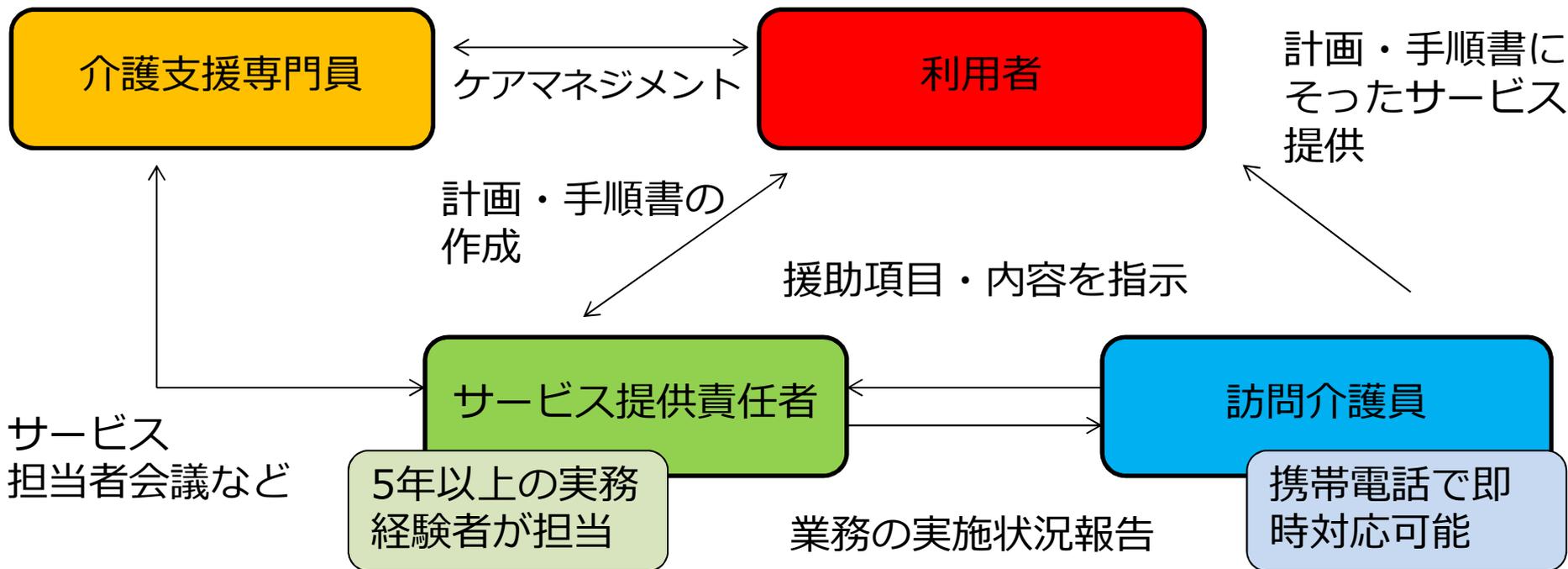
身体介護・生活援助・総合事業・自費サービスなど

訪問件数：

平均1,400～1500件/月

板橋区にある訪問介護事業所174事業所（H28年）
の中では中規模レベルの事業所となる

舟渡ヘルパーステーションの業務の流れ



教育体制

新人・未経験者には同行訪問
安心できるまで実施（平均3~4回）

毎月の定例会において全職員
対象で勉強会を実施

リスクマネジメント

昨年度事故件数 事故13件 インシデント2件
1位：忘れ物等6件 2位：派遣ミス2件
3位：破損紛失2件 クレーム事案ゼロ件

毎月の定例会においてリスクマネジメントを
含めたケースカンファを実施

EPA介護福祉士の 訪問介護業務に対する適性

ある程度の経験と、国家資格に合格できる知識を持った
E P A 介護福祉士は業務的な意味では十分にやっていく能力
があると思われる。

懸案があるとすれば、訪問介護特有の部分をいかにフォロー
することが出来るかと言った部分である。

具体的には

- ①ご利用者やその家庭に合わせた援助・対応について
- ②事故や緊急事態発生時の対応
- ③ご利用者やその家族からのクレーム対応

などが考えられる

課題への対応

①ご利用者やその家庭
に合わせた援助・対応

完全にその家のご利用者
支援が出来る様になり、
ご利用者とその家族から
信頼を得るまで職員2名
で対応する。

②事故や緊急事態発生
時の対応

マニュアルの徹底的な学習
や定期的な勉強会への
参加。
有事の際はすぐに事務所に
電話し、対応を仰ぐ。
(一人一台携帯電話を貸与)

③ご利用者やその家族
からのクレーム対応

EPA介護福祉士が対応に
困ること≠日本人職員が
困る事。
丁寧に根気強く教える
ことが重要と思われる。

まとめ

E P A介護福祉士が訪問介護事業でも働くことができるようになることは今後、外国人の高齢者が増加してくることを考えれば、将来の可能性を広げるものとして非常に意義のある事であると考えます。

E P A介護福祉士は能力的にもある程度のフォローがあれば十分日本人職員と同等以上の能力を発揮することが可能と思われる。

むしろ障害があるとすれば「外国人にはヘルパーは難しいのではないか」という我々の先入観にあるかも知れない。

介護福祉士まで合格した人たちは十分な日本語能力と介護力を身に付けている。どのように工夫をしたら事業所、ご利用者、E P A介護福祉士の3者が気持ちよく訪問介護の世界に共存できるかこれからも積極的に考えていきたい。

ご清聴ありがとうございました

ケアポート板橋

